

1. 基幹プログラム

GIO

基本的臨床能力を身につけ、自己判断能力と手技を獲得する姿勢を養うために、患者を受け持ち、主体的に診療に携わり、その経験を今後の診療に生かす態度と能力を修得する。

初期研修終了時にあるべき姿

- ・各科の「一番若手医師の仕事」をになう。
- ・ER 当直を担当し、ER における研修医指導を行う。
- ・一般病院で求められる仕事（一般内科医、総合診療医、病院当直など）をになう。
- ・患者急変時の対応ができる。
- ・自ら社会のニーズを知り、そのニーズに対応するため成長することができる。
- ・医療安全について配慮できる。

SBOs

1. 医療人として必要な基本姿勢・態度をとる。
2. 経験すべき診察法・検査・手技を習得し、自身の診療に活用する。
3. 経験すべき症状・病態・疾患を経験する。
4. 定められた項目についてレポートを提出する。
5. 特殊な医療の現場を経験する。

方略

1. 規定に従った各科ローテートを行う。
2. 内科分野では内科、予防医療、皮膚科／膠原病をローテートする。ローテートではそれぞれのプログラムに従う。
3. 救急分野では救急科、外科総合診療領域をローテートし、2年間を通じて救急外来当直を行う。
4. 外科分野では一般外科、麻酔科をローテートする。
5. 選択必修分野では小児科、精神科、産婦人科をローテートする。
6. 選択ローテートは院内のすべての診療科または院外の研修実施施設において、ローテート作成上の細則に則ったローテートを組むことができる。
7. ローテート先では規定されない期間、項目は、臨床研修センターの指示に従う。

評価

1. 各科指導医が研修医を観察、フィードバックする。
 2. EPOC による目標達成評価を行う。
 3. レポート提出を課す。
 4. 各ローテートにおいて評価表を記入する。
 5. 定期的に指導医部会を開く。
 6. 指導医部会の答申を基に、研修管理委員会が総括評価する。
- 総括評価は初期、中期、終了時におこなう。